



# 熊本県立熊本西高校

▶ 設立：1974年 ▶ 種別：全日制／普通科、普通科体育コース、サイエンス情報科／共学 ▶ 生徒数：1学年約360人  
 ▶ 2018年度より教育、募集、校務等あらゆる活動が対象の学校改革がスタート。大学や企業との連携が進む。  
 ▶ 卒業生の進路状況 大学・短大・準大…61%、高専…6%、専門学校…26%、就職・その他…7%

## 年内入試活用へ指導方針を転換

本校では、2019年度から年内入試を適切に利用するように、進路指導の方針を転換しました。それまでは生徒の学力を最後まで伸ばして、一般入試で偏差値上位の大学に挑戦することを生徒に勧めていました。しかし、受験生の安全志向などにより、本校の生徒がこれまで合格していた大学の合格ラインが上昇し、不合格となるケースがめだってきました。学力勝負にこだわっている、生徒の志望は実現できません。そこで、総合的な力を評価する年内入試の活用の方針を転換したのです。その結果、2019年度卒業生は、国公立大進学者16人中15人が、私立大進学者も6割以上が年内入試で合格しました。

年内入試の指導で一番重視しているのが、志望理由書の作成です。生徒には、大学のアドミッション・ポリシーをきちんとかみ砕いて、自分の言葉で志望理由を書くように指導しています。しかし、例えば大学で、「なぜ、コミュニケーション力が求められるのか」「なぜ、チームワークが必要なのか」を問うと、答えに詰まる生徒が少なくありません。コミュニケーションというと、友達とよく話をする程度にしか考えていないのです。そこで、生徒が志望理由をしっかりと考える時間を確保するために、これまで3年で行っていた受験校決定のための三者面談を前倒しし、高2の12月に実施するように本年度の3年生から変更しました。

担任の教員に対しても、調査書を作成する際は大学のアドミッション・ポリシーをふまえるように話しています。2021年度入試より、調査書の両面1枚までの制限がなくなりました。そこで、大学の入試担当者に、調査書の活用方法を聞いて回りました。その結果わかったことは、大学が調査書に求めているのは「量」ではなく「質」だということです。募集要項の内容をよく確認するなどして、大学が求めていることを的確に把握し、生徒のよさを簡潔に伝えられるように、われわれも努めています。

## アカデミック・インターンシップで変わる生徒

受験指導の中だけで、生徒の志望理由書のレベルを引き上げていくには限界があります。そこで、1年次に大学や専門学校で授業や実習に臨むアカデミック・インターンシップ「NAIS」\*を、今の3年生から立ち上げました。初年度は希望者のみでしたが、翌年度からは全員参加に切り替えました。5日間連続で本校の生徒向けに授業を行ってもらい、受け入れ先の大学・専門学校には大きな負担をかけたと思います。しかし、「授業を聞く態度が変わった」「日誌に書く内容が変わった」など、目に見えて生徒の様子が変わりました。将来の学びを体験することで、今の自分に足りない課題を実感したからです。

大学や専門学校には、生徒の志望意欲を育てる高校の取り組みに、ぜひ協力していただきたい。将来を見据えて高校でしっかりと学ぶ生徒を育てることは、大学や専門学校にとっても必ずプラスになるはずですよ。

**目利きに聞く！**  
**将来の学びへの準備を**  
**促すための高大連携**



進路指導主事  
もりやま みき とし  
**森山幹俊**

**年内入試の進学実績(2019年)** 国公立大／熊本大学、宮崎大学、山口大学、熊本県立大学、北九州市立大学など  
 私立大／西南学院大学、福岡大学、熊本学園大学、崇城大学、九州看護福祉大学など

	高1	高2	高3
<b>年内入試指導スケジュール</b> (受験校の決定～受験対策)	8、9月 ・NAIS(大学、専門学校で5日間の授業、実習等)	12月 ・併願大を含め受験大を決定 ・三者面談	7月～ ・年内入試対策学習会 ・志望者の多い大学で週3回実施 ・早期出願の大学に対する指導開始 9月～ ・小論文、面接対策開始
<b>年内入試指導のポイント</b>	▶ 生徒にアドミッション・ポリシー(AP)をふまえた志望理由書作成を指導 ▶ 教員もAPの読み解きに力を入れ、APに沿った書類を作成する ▶ 高1で上級学校に触れさせ、将来のために学ぶ意識を高める		
<b>大学への期待</b>	<b>年内入試</b>	▶ 一般選抜と同様に学力重視になりすぎると、「大学で絶対に伸びる」と確信を得ている生徒が進学できない ▶ 高校と相互理解を進め、信頼できると感じた高校には積極的に指定校推薦枠を設けてほしい	
	<b>高大接続</b>	▶ アカデミック・インターンシップの教育効果は非常に高いので、今後も連携を続けていけるよう、協力をお願いしたい	
<b>情報提供</b>	▶ 大学が入学者に期待する資質・能力などを生徒、教員向けにしっかりと伝えてもらいたい ▶ 入試改革への対応などについて、腹を割って話してほしい		

\*西高アカデミック・インターンシップ。本年度はコロナの影響により実施形態を変更予定

取材・文／児山雄介 撮影／福山哲